

歓喜と慶喜、親鸞聖人の喜び

川の水がかなり少なくなっていますね。

仏事でお会いした方に「田植えは済んだの?」

とお尋ねするのですが、「水が足らんけ、まだ代があかんばい」

との声を聞くことが多々あります。水不足が深刻です。

早く田植えが終わらないと農家としての安心・安堵感、「よろこび」の気持ちが起こりませんね。田植えが終わるくらいの恵みの雨が早く降るといいのですが!

さて、今月は「よろこび」ということに視点をあてて親鸞聖人が浄土真宗の救いというものを、どのように味わっておられたかがうかがってみたいと思います。

親鸞聖人は「よろこび」あるいは「よろこび」という言葉をご著作の中で「歓喜」と「慶喜」という二つの言葉で

使い分けておられます。使い分けておられるのですから当然「歓喜」で表す時と、「慶喜」で表す時とで意味を変えておられるのです。

「歓喜」という字、親鸞聖人は『一念多念文意』で「歓喜」というのはうべきことをえんすと、かねてさきよりよろこぶ心なり」と註釈されています。まだ実現していないけれども、必ず実現すると決まっている大切な事柄を前もって喜ぶことです。だからこれは将来(未来・当来)の喜びを



表しているわけです。

「慶喜」という字は、同じく『一念多念文意』で「慶といふはうべきことをえてのちによるこぶ心なり」と述べておられます。だからこの場合はすでに実現していることを喜んでおられるわけです。

救いという言葉でこの二つの言葉をうかがうと「歓喜」は、間違いなく救われると先立ってよろこぶ心になります。これが「歓喜」という言葉です。「慶喜」はすでに救われたとよろこんでいる状態で、すでに実現している救いをよろこぶときは「慶喜」という言葉を用いられています。この二つの「よろこび」を頂戴していることが、阿弥陀さまのお救いにあずかった姿だと、親鸞聖人は味わっておられ、著書、『教行信証』から『親鸞聖人御消息』まで一貫して同じ様に使っておられます。

私たちもすでに救われた(往生間違いなしの身にならせていただいた)とよろこぶ心、まだ実現していないけれども必ず実現する(命終の時

にお浄土に救われてさどりの智慧をいただく)とよろこぶ心を味わいたいことです。

ところで、先月二十七日に高千穂町田原の正念寺で行われた「第三十九回高千穂組仏教女性の集い」で、ご講師の前田純代先生が「よろこび」の法話をされました。漢字は「歓び」と「慶び」。字は違ったのですが、お取次ぎの内容がまだ実現していないが必ず実現することをよろこぶこと、「慶び」はすでに実現していることをよろこぶこと。

その違いを女子高生の大学入試で表現されました。

合格通知を受け取った時のよろこびはすでに実現しているので「慶び」、大学生としてのキャンパスライフのよろこびは、まだ実現していないが間違いなく実現するので「歓び」と。

分かり易く、「ふーん」と聞かせていただきました。偶然でしたが、同じ「よろこび」に視点をあてることができ、「よろこび」を感じました。

法語の世界

《原文》

他宗には法にあひたるを宿縁といふ。当流には信をとることを宿善といふ。信心をうることを肝要なり。さればこの御をしへには群機をもらさぬゆゑに、弥陀の教をば弘教ともいふなり。
〔蓮如上人御一代記聞書〕二百二十四

《現代語訳》

他宗では、仏法にあうことを宿縁によるという。浄土真宗では、信心を得ることを宿善が開けたという。信心を得ることが何より大切なのである。阿弥陀仏のみ教えは、あらゆる人々をもらさず救うので、弘教すなわち広大な教えともいうのである。

《用語の解説》

群機……凡夫・聖者、善人・悪人、賢者・愚者、老少年女等さまざまの人すべて、あらゆる人々。
弘教……広大な教え。すべての人びとを救う教法。

年回忌について

◎ お忘れではないですか

昨年中に本年、年回忌をお迎えになるお宅にはご案内をお届けしています。まだ、おつとめになっていないお宅があります。お忘れではありませんか。おつとめにならない場合も連絡ください。

◎ 年回忌日程について

年回忌の日時を決められる際は早目に相談してください。相談順の早目に日時を決めています。希望日の前日に相談を受けることがありますが、ご要望に応じられないこともあります。また、年回忌は祥月命日を過ぎてもかまいません。

金光寺からの連絡

初盆会について

初盆会について、日時を決め、お斎の予定をお立ての際は早目にご連絡ください。受付順に日時を決めます。本年6月7日現在、25軒が初盆会をお迎えになりそうです。お斎の予定がない場合も連絡ください。当山の空いている時間にお参りをいたします。

